



○県道に土のう？

今年十月に入った頃から、円城寺地内の県道下中屋―笠松線沿いに時折、土のうを目にされた方もあろう。JR陸橋下付近―愛生病院―JAふれ

あいホールに至る区間、多い時には二十

〜三十袋に達する。ここに土のうが、な

ぜ？ 洪水への備え？この秋の時期

に？ そんな思いをもちながら通行さ

れた方も多かったのではないか。

○土のうの正体！

この土のうは道路の

縁石両側にたまって

いた土砂を袋に詰め

たもの。この作業をされたのは地元伊東

精二郎さん七十七歳。晴れた日に半日

ずつ取り組まれた。まず、縁石沿いの

草を引く。次いで、スコップですくつ



た土砂を手製の台（写真参照）に固定し

た袋に詰める。最後に、竹ぼうきで細か

いゴミを掃き寄せる。燃えるものと土砂

とに分け袋に詰め、燃えるものはゴミ出

しに、土砂は地元企業にお願いし処理。

これまでの土のうの数は約五百にのぼ

る。一袋が二十数キログラム。この一

カ月間で、十トン以上の土砂を取り除き、

きれいな道路にされた。

○感謝の声と支えが励み！

見知らぬ方から「お疲れさま」「きれ

いになりましたね」と声をかけられたり、

車の窓を開け「ありがとう」「いいです」

と声をかけら

れたりするこ

ともあった。

そんな声を聞

くと、うれしく励みになると語られる。

さらに袋の用意をしてくれた方や土の

うを運んでくれる地元企業の方々の支

えへの感謝の気持ちを語られる。

○きれいな地域に！

健康に心がけながら、伊東さんは一
カ月余り続けられた。この県道もポイ
捨てゴミが気になる。しかし、道路を
きれいにすれば、ゴミを捨てる人も減り、
いっそうきれいになる。そして、みんな
が気持ちよく生活できる。そんな思いで
取り組まれた。きれいにされた道路を
通るたびに、その心が感じられ道端の
コスモスも一段と映えます。



県道 下中屋―笠松線で手製の台（木製）を作り、土を袋に詰め運搬する